

JCMA 関西

Japan Construction Machinery and Construction Association, Kansai Branch Office

JCMA 関西 冬号

巻頭言



令和3年度
通常総会

建設機械
施工管理技術
検定試験

新しい建機展
視察報告



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



新入会員
行事報告
編集後記

119
Winter
2021

- 01 巻頭言
「近畿地方整備局における
インフラDX研修について」
- 02 令和3年度通常総会
- 03 特集 近畿インフラDX推進センターを訪ねて
- 05 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験
- 07 『新しい建機展』視察報告
- 08 【SDGs】会員各社の取組紹介
- 09 新入会員
- 10 関西支部行事報告
- 12 編集後記

近畿地方整備局における インフラDX研修について

近畿地方整備局 企画部施工企画課長 勝田 健史



近畿地方整備局では、インフラ分野のDXを推進していくため、2020年12月に、インフラDX推進本部を立ち上げました。推進体制として、BIM/CIM推進部会、ICT施工・無人化施工推進部会、人材育成支援部会など8つの部会において、検討テーマを設定し、各事務所とも連携して、具体的な取組みを議論しています。

インフラDXを推進していくためには、データの重要性を理解し、デジタル技術を活用できる人材が必要です。このため、2021年4月1日に、全国に先駆けて、「近畿インフラDX推進センター」を開設し、人材育成のための研修やDXの情報発信を行っております。今年度予定している人材育成のための研修は、次の通りです。また研修ごとに研修対象者が定められております。

① BIM/CIM 研修（入門、初級、中級）

対象者 国・地方公共団体職員 等

研修概要 インフラのデジタル化を進め、2023年までに小規模なものを除くすべての公共工事についてBIM/CIM活用への転換を実現するために、BIM/CIMが活用できる人材を育成することを目的とした研修です。

② ICT 活用研修（入門、初級、中級）

対象者 国・地方公共団体職員、民間の建設技術者

研修概要 国交省においては、建設現場の生産性向上を図るため、測量・施工・検査等の全プロセスでICTを活用した施策である、i-Constructionの積極的な推進を展開しています。この中で、測量段階から作成した3次元データをICT施工に展開し、得られた3次元データの出来高管理情報等に基づき、監督検査に活用するための研修です。

③ 無人化施工研修（入門、初級）

対象者 民間の建設技術者（近畿地方整備局と災害協定を締結している団体等の建設技術者）

研修概要 土砂災害等により被災した現場の復旧作

業には引き続き土砂崩落、落石などの恐れがあり、作業員の安全確保のため現場に立ち入ることが困難で、更なる大規模災害を防ぐためには迅速な復旧作業が求められております。そこで、作業員の安全を確保し、復旧作業を行うことができる無人化施工技術の知識および基本操作を習得でき、また、実際に無人化施工において現場での作業を想定し、有視界において遠隔操作を取得するための研修です。

また、現在実施しているICT活用研修について、研修参加者より次の感想がありましたので紹介します。

〈研修参加者の感想（ICT活用研修）〉

- 会社としてICTを進めていくため、会社の幹部クラスが若い社員をつれて研修に参加した。3次元データ作成、起工測量や機器等をリリースしているが、利益率をあげるために自社でできるように学びたい。
- 通常の講習会では、映像だけや建機が動いているのを見ているだけだが、実際に触れ、体験できたのは良かった。

近畿地方整備局では、引き続き研修を実施するとともに研修参加者の感想等を踏まえ研修内容のより一層の向上を図ります。インフラDX研修については、現在も研修員の募集を行っております。研修に興味がある方においては、近畿インフラDX推進サイトをご確認いただけますと幸いです。近畿インフラDX推進サイトでは、インフラDX研修の申込状況、カリキュラム、実施要領などが掲載されております。また、インフラDXの取組事例や研修情報を発信している「近畿インフラDX通信」や近畿インフラDX推進センターの見学受付などの情報も掲載しております。

インフラ分野でのDX推進により、生産性向上や働き方改革、行政サービスの向上に努めてまいりますので、ご協力をお願い致します。

〈インフラDX推進サイト〉 <https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/infraDX/index.html>

令和3年度通常総会

一般社団法人日本建設機械施工協会関西支部第10回通常総会は、令和3年5月13日（木）に開催されました。総会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い大阪府に緊急事態宣言が出されたことを踏まえ、感染防止の観点から議長、議事録署名人、事務局等の最小人員の構成による出席で行われました。

なお、今年度は役員の方の非改選期であることから引き続き、深川良一支部長以下の現行体制の継続となりました。

永年団体会員表彰

例年、総会において一般社団法人日本建設機械施工協会団体会員等表彰規程に基づく、本部長表彰授与式が行われています。今年度は会員期間70年が5社と60年2社、50年1社、40年1社のあわせて9社が表彰されました。

特に今年度は関西支部創立から71年を経過しており、会員期間70年の会員会社も多く5社が該当となりました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、総会での授与式は残念ながら中止となりました。

団体会員等表彰は当会の創立60周年を機に平成21年度に創設されたものです。表彰対象は、本部長団体会員、支部団体会員、個人会員及び当会の役職員です。

支部団体会員(9社)	
会員期間70年	株式会社コシハラ
	コベルコ建機株式会社
	コマツカスタマーサポート株式会社 近畿四国カンパニー
	日本キャタピラー合同会社
	日立建機日本株式会社関西支社
会員期間60年	株式会社竹中工務店
	前田建設工業株式会社関西支店
会員期間50年	デンヨー株式会社大阪支店
会員期間40年	株式会社東洋電機工業所

令和2年度事業報告・決算報告 令和3年度事業計画・収支予算について

令和2年度事業報告では、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により例年実施している「建設施工研修会」や「施工技術報告会」、「損料・橋梁・大口径」講習会などが開催中止となったとの報告がありました。一方、6月の第3日曜日に実施していた1級・2級建設機械施工技術検定試験(学科試験)は、延期となり、1級は令和2年10月11日（日）、2級は令和3年1月17日（日）の別日程で無事開催されたとの報告がありました。

また、ICT施工の普及・促進活動の取組みの一環である「建設技術展2020近畿」や「ふれあい土木展2020」への出展状況の報告や、その他各部会活動についての報告がありました。また近畿地方整備局との意見交換会や外国人技能実習制度評価試験（関西地区定期試験）の実施状況についても報告されました。

令和3年度の事業計画に関しては、引き続きICT施工の普及促進への取組みや各種研修会などが計画され、近畿地方整備局との意見交換会の実施なども提案されました。なお、これらの活動事業を実施する上での収支予算についても承認されました。

優良建設機械運転員等表彰

関西支部優良建設機械運転員等表彰規程に基づく受賞者は、運転部門は2名、整備部門は5名で、合わせて7名の方が受賞されました。なお、授与式が中止となったことから記念品や記念バッチについては、別途受賞者宛てに送付されました。

運転部門(2名)	
鶴田 直也	株式会社サイガ
下田 義和	株式会社マツイコーポレーション
整備部門(5名)	
久保田博昭	株式会社アクティオ
村松 明	コマツカスタマーサポート株式会社
東浦 敏也	サコス株式会社
田村 弘知	西尾レントオール株式会社
森本 聖	株式会社レンタルのニッケン

近畿インフラDX 推進センターを訪ねて

一般社団法人 日本建設機械施工協会 関西支部
「JCMA関西」編集委員



最近、様々な場所で聞かれるようになった、DX（デジタルトランスフォーメーション）についてご紹介します。

令和3年4月1日に近畿地方整備局 近畿技術事務所に開設された「近畿インフラDX推進センター」を訪問し、当日は近畿技術事務所・能登眞澄技術活用・人材育成課長にご案内いただきました。

見学施設の概要

研修ルーム

まず「研修ルーム」にて施設概要について説明がありました。「研修ルーム」は2室あり、3次元データを操作できるタッチパネルモニターを備え、3次元ソフトを用いたDX研修全般を行えるとのことで、実際に3Dデータを使ったタッチパネルの使用法を体験させていただきました。パソコンのマウスを使うより、タッチパネル操作のほうが体感的に感じる事ができるので、初心者にも面白みがあり興味を引くのではと感じました。

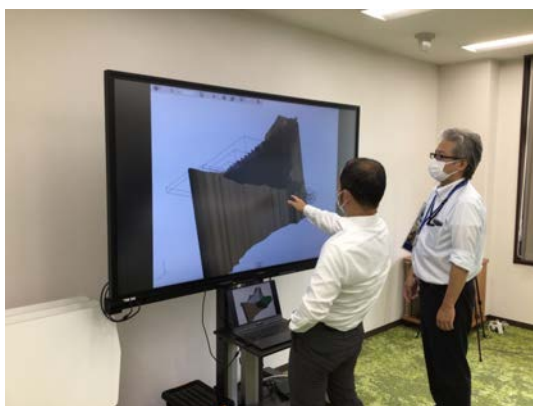


写真-1 タッチパネルで3Dデータを確認

建機オペレーションルーム

続いて、「建機オペレーションルーム」です。

無人化施工機械の遠隔操縦実習を行うための施設で、無人化施工機械を操作する機器とマルチモニタを備えております。こちらのオペレーションルームからは無人化施工機械を目視で確認することができ、目視での実習とモニタでの実習の両方を行えるようになっていました。



オペルームから見た
無人化施工ヤード



写真-2 建機オペレーションルーム

WEB会議ルーム

屋内施設の最後は「WEB会議ルーム」へ案内されました。施設へ来場された方にインフラDXに興味を持っていただくために、3次元の体験や最新技術の情報発信を行うようにされているようです。

会議ルームは360°プロジェクタを備えておりVR（仮想現実）を用いて、3Dデータや新技術を体感できるようになっておりました。

実際に3Dレーザスキャナで計測した点群データを見ながら、工事により街の景観がどのように変化していくのかなど、現状の風景と工事によって新たに作られる施設の設計データを重ねることで、周辺住民や発注者と施工者との情報共有に役立つ技術を紹介いただきました。



写真-3 WEB会議ルームでのVR(仮想現実)体験

ICT施工研修

DXセンターでは、国、地方公共団体の職員や民間の建設技術者を対象に、ICT施工研修や無人化施工研修が実施されており、入門編や初級編、中級編に分かれ取材当日は発注者向けのICT施工研修（入門編）が行われていました。

ICT施工研修(3次元測量)

最初の体験コーナーでは、構内のヘリポートを利用し、ドローン（UAV）による上空飛行や3Dレーザスキャナ等による起工測量の実演がありました。



写真-4 ドローン（UAV）による起工測量実演風景

ICT施工研修（ICT施工体験ヤード）

ICT施工体験ヤードでは、マシンコントロールを搭載したバックホウ（0.45㎡級）や小規模工事用のミニバックホウにブレードのマシンコントロール機能を備えた機械に乗車できます。また、TC（TS）を使用した出来形検査等の実習も行われていました。



写真-5 ICT 建機の操作体験



写真-6 TC(TS)を使用した出来形検査

おわりに

従来の近畿技術事務所の研修施設の内装が大幅にリニューアルされたことにより、インフラ分野のDXの推進に必要な人材育成や最新技術の情報発信基地にふさわしい施設になったと感じました。

また、業界や職員の働き方改革や生産性向上に向けた研修などが増え、インフラ分野のDXにより現場の生産システムと働き方が変わっていくことが実感できる施設になっていました。

令和3年度 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験

第一次検定・第二次検定（筆記）

今回、制度改正後、初めて実施された令和3年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定（第一次検定・第二次検定（筆記））試験は、令和3年6月20日（日）全国一斉に行われました。大阪会場においても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い緊急事態宣言が発令中でしたが、感染防止対策を実施したうえで、大阪工業大学大宮キャンパスで行われました。

今年度の受検者は緊急事態宣言下であったことから、当日の欠席者は158名となりました。なお、受検数は1級と2級を合わせて1,358名となりました。これは例年とほぼ同程度の受検者数となっています。

なお、2級における受検種別の内訳は、圧倒的に2種が多く、続いて4種、1種の順となりました。また、相変わらず3種の受検者は1桁となりました。合格率は1級が27%、2級が47%でした。



	1級	2級							
		共通	種別（延人数）						計
			1	2	3	4	5	6	
受検予定者	470	998	59	891	2	70	13	23	1058
実受検者	404	905	56	805	2	66	8	17	954
受検率（%）	86	91	95	90	100	94	62	74	90

新たな制度で第二次検定（筆記）を実施

新たな制度に伴い2級の検定試験に1級と同様に第二次検定（筆記）試験が追加され1級、2級とも検定区分と試験方法が変更となりました。

【1級】第一次検定の区分は1区分のみ

検定区分	試験方法
第一次検定	四者択一式 マークシート記入方式
第二次検定（筆記）	記述解答方式

【2級】第一次検定は（共通）と（種目別試験）の2区分

検定区分	試験方法	
第二次検定（筆記）	四者択一式 マークシート記入方式	
第一次検定		（共通）
		（偶数種別） （奇数種別）

【2級】第二次検定（筆記）

第二次検定（筆記）の検定科目と検定基準は下表のとおりです。試験は、第1種～第6種まで共通の試験として、四者択一のマークシート方式となります。

検定科目	検定基準
施工管理法	<ol style="list-style-type: none"> 主任技術者として、建設機械による建設工事の施工の管理を適確に行うために必要な知識を有すること。 主任技術者として、設計図書に基づいて工事現場における施工計画を適切に作成すること、又は施工計画に基づいて施工方法及び手順の選定を適確に実施することができる応用能力を有すること。

令和3年度 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験（第二次検定）

第二次検定試験

令和3年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定試験（第二次検定）の実施に際し、今回、特別な処置として、令和2年度1・2級の学科試験の合格者を対象にした実地試験（実技）について、令和3年度建設機械施工管理技術検定 第二次検定（実技）として実施されることとなり、令和3年度の第一次検定の合格者とあわせて下記の日程で実施されました。

【小野会場】

令和3年8月26日（木）～8月30日（月）

【明石会場】

令和3年9月6日（月）～9月11日（土）

今年度の第二次検定の実受検者数は、令和2年度分の学科試験合格者と同時に実施されたことにより、1級と2級の合計で1,071名となり大幅に増加しました。



試験開始前の全体説明（小野会場）

受検種別では、第2種（バックホウ）が圧倒的に多くなった一方で、今年度の特徴として第4種（ロード・ローラ）の受検者数がこれまでと比べ減少しました。

表-1 令和3年度（1級）第二次検定試験受検者数

1級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	52	120	97	12	281
実受検者	49	115	95	12	271
受検率（%）	94	96	98	100	96

表-2 令和3年度（2級）第二次検定試験受検者数

2級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	50	710	24	36	820
実受検者	49	693	23	35	800
受検率（%）	98	98	96	97	98

試験会場（明石）



第2種バックホウ



第4種ロード・ローラ



第6種アースオーガ



第1種ブルドーザ



試験会場（小野）



第2種バックホウ

『新しい建機展』 視察報告

最先端技術を搭載した建機も登場

2021年8月19日(木)・20日(金)、広報部会メンバーにて、西尾レントオール(株)主催の『新しい建機展』を視察してきました。

開催場所は大阪・関西万博開催地に隣接する大阪咲洲(大阪市住之江区)で、西尾レントオール(株)R&D国際交流センター(仮称・建設予定地)で開催されました。

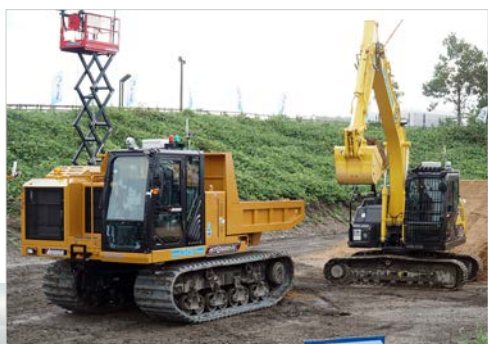
初日は、局地的な集中豪雨に見舞われましたが、雨対策も万全でスムーズな運営の中、多くの来場者が訪れ大変な賑わいとなっていました。

2025年大阪・関西万博に向けた大きな盛り上がり期待される関西の建設業界において、最先端技術を搭載した建機等を体験できる機会をご提供いただきました。

無人化施工技術・自動運転技術の紹介

現在、建設業界においてICTは社会イノベーションを起こし、国土交通省も2025年のBIM/CIM原則適用化を2023年に前倒しすると発表しており、各社が新たな技術を矢継ぎ早に発表したり、新たなベンチャー企業が誕生したりと新しい時代を迎えています。

そんな中、今回の西尾レントオール(株)主催の「新しい建機展」は、まさに時代に合った展示会であり、特設ステージでは無人化施工技術や自動運転技術等の紹介がありました。



無人化施工技術の紹介



展示会場メインコーナ

来場者の方も各社の新技術に興味津々で、また何か新しいモノを探しているかのように様々な場所で意見交換が行われコロナや雨を吹き飛ばすかのような大盛況でした。

この夏、オリンピック・パラリンピックが無事に終わりました。

さて次は2025年「大阪・関西万博」です。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。

今回「新しい建機展」で紹介された新たな技術・製品が関西の現場で使われて未来社会のデザインの一助になると私は確信しました。



開催期間中、会場内の特設スタジオや展示ブースよりYouTubeライブ配信を実施

【SDGs】 会員各社の取組紹介

「SDGs」 会員各社の取組状況

皆様、SDGsという言葉はご存じですか？

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）ということで、広報部会でも持続可能な広報部会を目指して、新たな取組を開始します。

そこで今回、広報部会では会員各社の方々に「SDGsの取組」状況に関するアンケート調査を実施しました。

アンケートは10月11日に依頼し、10月末現在での回答結果は、「現在取組んでいる」が46%、「今後取組む予定」20%で、合わせると会員会社の2/3が取組んでいるとの回答結果で、関心の高い状況となっています。

各社からの回答では、様々な場面に応じた独自の開発目標が寄せられており興味深い内容となっています。今後、広報誌「JCMA 関西」において紹介していきたいと思えます。

皆さんもSDGsへの貢献に向かってできることを一度考えてみませんか。

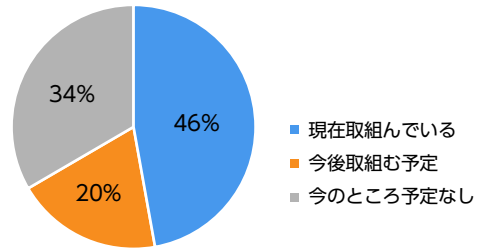


図-1 関西支部会員の取組状況

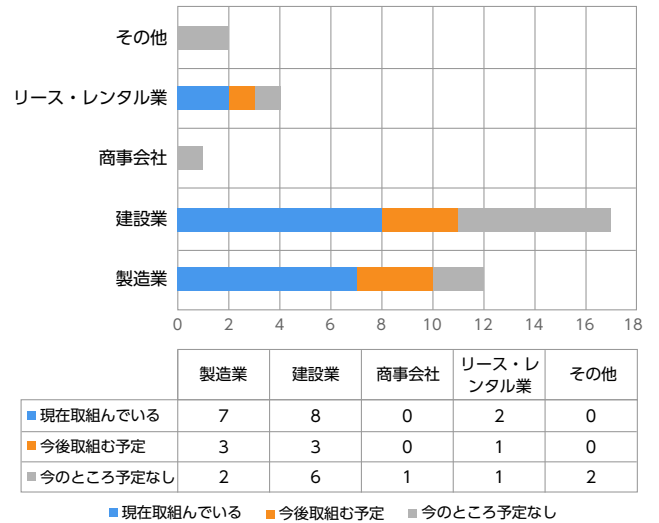


図-2 業種別取組状況の内訳

「SDGsの17の目標」

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、すべての人たちにとってより良い世界をつくるために設定された、世界共通の17の目標です。また「持続可能」とは、将来の世代のための地球環境や資源が守られ、今の状態が持続できることです。



1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

新入会員紹介

iXs

株式会社イクシス

会社概要

会社名：株式会社イクシス
代表者：山崎文敬 / 代表取締役 Co-CEO 兼 CTO
狩野高志 / 代表取締役 Co-CEO
所在地：本社兼関東拠点 〒212-0032
神奈川県川崎市幸区新川崎 7-7
かわさき新産業創造センター (AIRBIC) 内
TEL：044-589-1500
東北拠点 〒980-0021
宮城県仙台市青葉区中央 2-8-11(3F)
TEL：022-302-3257
東海拠点 〒464-0075
愛知県名古屋市中千種区内 1-18-16(4F)
TEL：052-734-6151
甲信越拠点 〒380-0921
長野県長野市栗田 857-1(1F)
TEL：026-217-6407
関西拠点 〒567-0052
大阪府吹田市広芝町 8-12(2F)
TEL：06-6337-6101
九州拠点 〒812-0013
福岡県福岡市博多区博多駅東 1-1-13
TEL：092-409-1534
設立：1998年6月(2018年9月付で商号変更・第二創業)
事業内容：インフラ向けロボット及び特殊環境
対応型ロボット等の開発、販売
AI、IoT、ICT 機器及びソフトウェアの開発、販売
及び運用
取得データ AI 解析サービスの提供
ICT・BIM/CIM 等の3D データサービスの提供

会社紹介

弊社は 1998 年の設立以来、社会・産業インフラ向けロボットの開発を手掛けております。2018 年の第二創業を経て、多岐に渡るインフラ領域の各分野の優秀な経験者の参画、自社開発～運用が可能な多領域の技術プロフェッショナルが揃い、「ロボット ×AI 解析 ×3D データ連携」を一気通貫で提供できる会社となりました。

弊社の強みは、上記トータルソリューションによる、BIM/CIM データと双方向連動の自律走行ロボットや遠隔操作システムといった先端開発に加え、現場で即日使える DX エントリー商材の提供の両面を有していることにあります。

各分野では、ロボット開発において、設計から部品調達、開発、製造、運用サポートまでといったワンストップで対応をさせていただいております。AI データ領域では、大手企業様との共同開発に加え、昨今話題の AI / AR を取り入れたサービスを提供しております。3D データソリューションでは、BIM/CIM は勿論の事、ICT 活用工事における起工測量から、3D データ作成、納品データ作成、ICT 施工に必要な実施工を除く全工程を全国各地でサポートさせていただいております。

日々革新が進む業界と i-Construction 推進に貢献させていただくべく、遠隔現場システムや AI 検知ネットワークカメラ等々、ロボットや AI 技術を用いたソリューションの提供をさせていただいておりますので、これからも御愛顧の程、お願い申し上げます。



ミツオ建設株式会社

会社概要

会社名：ミツオ建設株式会社
代表者：代表取締役 辻川 充男
所在地：本店 〒558-0004
大阪市住吉区長居東 1 丁目 9-24
VIDA 長居 1001 号
TEL：06-6697-0066 FAX：06-6697-5455
本社 〒546-0021
大阪市東住吉区照ヶ丘矢田 4 丁目 16-21
TEL：06-6760-5811 FAX：06-6697-5366
和歌山出張所 〒649-2234
和歌山県西牟婁郡白浜町才野字鴨居 1483-3
鹿児島出張所 〒895-0054
鹿児島県薩摩川内市若松 5-8
設立：1992年6月25日
創業：1966年
事業内容：建設・土木・解体(総合建築業)

会社紹介

弊社は昭和 47 年の辻川興業設立以来、建築・土木・解体という作業を通じて人々を取り巻く住環境や商業環境の基礎造りに貢献して参りました。

近年では、土木としましては国土交通省発注の京奈地区耐震補強工事、解体としましてはなんば再開発の一環によりなんば界隈の解体工事を常時手掛けております。

管工事としましては現在、大阪市水道局発注の元町 2 丁目 150mm その他排水管布設工事等の工事を手掛けております。

建築としましては大阪市発注の大阪国際交流センター天井改修工事や、大手工場企業の受注実績があり(仮称)ニチイキッズ都島保育園新築工事を施工し内外からの厚い信頼を得ております。

弊社は、より高度な技術と安全、より確かな品質を求めて未来へ飛躍したいと考えております。

支部行事報告

支部行事報告（3月）

■企画部会（書面会議）

月 日：3月9日（火）

出席者：村中浩昭企画部会長以下4名

- 議 題：① 令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)
② 会員の推移
③ 優良建設機械運転員等表彰の推薦
④ 総会終了後の講演について
⑤ 今後の予定

■運営委員会（Web 併用）

月 日：3月11日（木）

場 所：大阪キャッスルホテル

出席者：深川良一支部長以下24名
(会場16名 Web8名)

- 議 題：① 令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)
② 会員入退会
③ 優良建設機械運転員等表彰の推薦
④ 総会終了後の講演について
⑤ 今後の予定

■建設用電気設備特別専門委員会（第465回）（Web 会議）

月 日：3月17日（水）

- 議 題：① 「JEM-TR104 建設工事用受配電設備点検補修のチェックリスト」 審議
② 「JEM-TR121 建設工事用電気設備機器点検保守のチェックリスト」 審議

支部行事報告（4月）

■建設用電気設備特別専門委員会（第466回）（Web 併用）

月 日：4月13日（火）

場 所：中央電気倶楽部 会議室

- 議 題：① 「JEM-TR104 建設工事用受配電設備点検補修のチェックリスト」 審議
② 「JEM-TR121 建設工事用電気設備機器点検保守のチェックリスト」 審議

■支部監査

月 日：4月19日（月）

場 所：関西支部 会議室

出席者：田口定一支部監査役、神谷敏孝支部監査役

内 容：令和2年度決算報告及び関係書類に基づく監査の実施

■企画部会（Web 会議）

月 日：4月20日（火）

出席者：村中浩昭企画部会長以下4名

- 議 題：① 令和2年度事業報告(案)及び決算報告(案)の件
② 優良建設機械運転員等表彰の件
③ 令和3年度本部会長表彰の件
④ 会員の推移
⑤ 運営委員会及び総会開催方法の変更について
⑥ 提案書

■運営委員会（書面会議）

月 日：4月28日（水）

出席者：深川良一支部長以下31名

- 議 題：① 令和2年度事業報告(案)及び決算報告(案)の件
② 優良建設機械運転員等表彰の件
③ 令和3年度本部会長表彰の件

支部行事報告（5月）

■支部通常総会

月 日：5月13日（木）

場 所：関西支部 会議室

出席者：深川良一支部長以下3名

- 議 題：① 令和2年度事業報告及び決算報告の件
② 令和3年度事業計画及び収支予算の件
③ 令和3年度本部会長表彰
④ 優良建設機械運転員等表彰

■建設用電気設備特別専門委員会（第467回）（Web 会議）

月 日：5月19日（水）

- 議 題：① 「JEM-TR104 建設工事用受配電設備点検補修のチェックリスト」 審議
② 「JEM-TR121 建設工事用電気設備機器点検保守のチェックリスト」 審議

支部行事報告（6月）

■令和3年度建設機械施工技術管理技術検定試験

試験監督者打合せ（第一次検定、第二次検定（筆記））

月 日：6月10日（木）

場 所：エル・おおさか

出席者：松本克英事務局長以下9名

- 議 題：① 試験監督要領について
② その他留意事項

■令和3年度建設機械施工技術管理技術検定試験

（第一次検定、第二次検定（筆記））

月 日：6月20日（日）
 場 所：大阪工業大学 大宮キャンパス
 受検者：1級 404名
 2級 954名（1種 56名、2種 805名、3種 2名、
 4種 66名、5種 8名、6種 17名）
**■建設用電気設備特別専門委員会（第468回）（Web
 会議）**
 日 時：6月16日（水）
 議 題：①「JEM-TR104 建設工事用受配電設備点検
 補修のチェックリスト」審議
 ②「JEM-TR121 建設工事用電気設備機器点
 検保守のチェックリスト」審議

支部行事報告（7月）

■広報部会
 月 日：7月14日（水）
 場 所：関西支部 会議室
 出席者：木村泰男広報部会長以下5名
 議 題：①年間事業計画について
 ②「JCMA 関西」第119号について

支部行事報告（8月）

■広報部会現地取材
 月 日：8月2日（月）
 場 所：近畿技術事務所
 参加者：木村泰男広報部会長以下4名
 内 容：近畿インフラDX推進センター取材
**■令和3年度 1・2級建設機械施工管理技術検定（第二
 次検定）試験監督者打合せ**
 月 日：8月6日（金）
 場 所：エル・おおさか
 出席者：松本克英事務局長以下11名
 議 題：①実技試験実施要領について
 ②その他
■広報部会現地取材
 月 日：8月19日（木）
 場 所：大阪市住之江区咲洲
 参加者：木村泰男広報部会長以下3名
 内 容：「新しい建機展」取材
**■令和3年度 1・2級建設機械施工管理技術検定試験
 （第二次検定）**
 月 日：8月26日（木）～8月30日（月）
 場 所：キャタピラー教習所（株）
 延受検者数：492名（1級 82名、2級 410名）

支部行事報告（9月）

■令和3年度 建設機械施工管理技術検定（第二次検定）
 月 日：9月6日（月）～9月11日（土）
 場 所：コベルコ教習所（株）
 延受検者数：579名（1級 189名、2級 390名）
■「建設技術展 2021 近畿」主催・共催者会議（第2回）
 月 日：9月15日（水）
 場 所：大阪マーチャндаイズ・マートビル
 出席者：桐野尚子
 議 題：①「建設技術展 2021 近畿」のプログラム及び
 全体概要について
 ②開会式出席依頼について
 ③注目技術賞の審査員について
 ④当日の動員体制について
■建設用電気設備特別専門委員会（第469回）
 月 日：9月15日（水）
 場 所：中央電気倶楽部 会議室
 議 題：①「JEM-TR121 建設工事用電気設備機器点
 検保守のチェックリスト進捗報告
 ②「JEM-TR104 建設工事用受配電設備点検
 補修のチェックリスト」審議
 ③その他

支部行事報告（10月）

■建設用電気設備特別専門委員会（第470回）
 月 日：10月22日（金）
 場 所：中央電気倶楽部 会議室
 議 題：①「JEM-TR104 建設工事用受配電設備点検
 補修のチェックリスト」審議
 ②その他
■「建設技術展 2021 近畿」出展
 月 日：10月27日（水）、10月28日（木）
 場 所：インテックス大阪
 入場者：14,491人
 テーマ：「情報化施工の普及促進」

編集後記

東京オリンピックも終わりほっとしていたところに、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が9月30日をもって全都道府県で解除されました。一方で続投と思われていた菅首相が自民党総裁選への不出馬を表明し岸田首相が誕生したのも束の間、解散総選挙と話題が多い時期でした。

また関西の明るい話題として、プロ野球パリーグのオリックスが25年ぶりにリーグ優勝を果たすと同時に、阪神タイガースは新人の佐藤選手の活躍もあり、久しぶりに最後まで優勝の期待がかかって大いに盛り上がりました。これから年末に向けて若干開放的なムードも漂っているように見えますが、第6波の感染拡大への注意も必要です。くれぐれもご注意ください。

さて、今回発行の119号では、近畿地方整備局企画部施工企画課長・勝田健史様より巻頭言「近畿地方整備局におけるインフラDX研修について」と題し、ご寄稿いただきました。

特集は、「JCMA 関西」の新たな企画として関西地区の各種行事や取組みについて広報部会編集委員が訪問して取材し紹介することにいたしました。

初回は、巻頭言にご寄稿いただいた2021年4月1日に全国に先駆けて開設された「近畿インフラDX推進センター」での、人材育成を目的とした研修の実施状況を見学させていただきました。また、南港の咲州で開催された最先端技術を搭載した建機も登場した「新しい建機展」も訪問いたしました。

今回お忙しい中、ご執筆いただきました皆様には、改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。これからも新たな視点からより良い広報誌の発刊、情報提供に向けて頑張る所存ですので、皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

編集部一同



原稿をお寄せください

『JCMA関西』に原稿をお寄せください。内容はなんでも結構です。

新機種・新工法の紹介、社内報の紹介、
随筆、川柳、提言、体験記、ご意見、 など…
送り先：一般社団法人 日本建設機械施工協会 関西支部

JCMA関西編集委員

木村泰男（委員長）
高橋通夫
小段栄一
田口雅章
田村和紀
小西伸之
新稲信人
松本克英（事務局）
橋爪涼子（事務局）



至天王寺 交通: 地下鉄谷町線天満橋駅④番出口より徒歩3分
京阪電車天満橋駅より徒歩5分

一般社団法人 **日本建設機械施工協会関西支部**

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル
TEL. 06 (6941) 8845・8789
FAX. 06 (6941) 1378
e-mail jcmakans@muse.ocn.ne.jp
http://jcmakansai.main.jp